

【平成 29 年 7 月 第 3 回臨時会】

開会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、平成 29 年市川三郷町議会第 3 回臨時会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましてはご多用の中、ご出席を賜り、ここに臨時会が開会できますことに厚くお礼を申し上げます。

また平素、町行政の推進に深いご理解とご協力をいただいておりますことに併せて感謝を申し上げます。

はじめに今月 7 月 5 日 6 日の九州北部、福岡、大分、佐賀、3 県をはじめ記録的豪雨により甚大な被害がありました。亡くなられました方々に謹んで哀悼の意とご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われました多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。

次に先週 7 月 20 日午後 1 時 30 分よりの、高田排水機場 新設 排水ポンプ通水式に議会から、土木環境常任委員会 内田利明 委員長、丹沢孝 副委員長、地元議員 一瀬正議員、村松武人 議員、宮崎博巳 議員、市川朝嗣 議員、高尾貫 議員のご臨席をいただきました。猛暑の中、誠にありがとうございました。

旧高田排水機場は 50 年前、1967 年（昭和 42 年）に県営湛水防除事業の一環として施工されました。排水能力は最大排水量 毎秒 1.73 トンが 2 基、毎秒 3.46 トンでありました。

遡りますと 1990 年（平成 2 年）9 月に高田耕地組合から市川大門町議会議長への全面的改築の請願から 27 年。2002 年（平成 14 年）9 月に市川大門町総合的治水対策懇談会を町、県、国土交通省の 3 者で発足から 15 年。この平成 14 年頃から排水ポンプやエンジンの経年劣化によりエンジンの回転が安定せず、長時間の運転に耐えられず、停止することも重なり、排水能力は 50%以下、毎秒 1 トンから 1.5 トン程度まで低下しております。

2004 年度（平成 16 年度）から、以降、県及び国土交通省に農水省事業から国土交通省事業としていただくことを繰り返し繰り返し陳情してきました。

その結果として平成 25 年度に国土交通省事業「鳴沢川内水対策事業」として認めていただき、平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 年事業として着工することができました。

新設排水機場の排水ポンプは毎秒 1 トンを 4 基（最大毎秒 4 トン）、自家発電機、配電盤、除塵機等、最新の設備です。

総事業費は 6 億 6,655 万円、財源内訳は国庫補助金 3 億 1,055 万円（46.6%）、合併特例債 3 億 1,550 万円（47.3%）、一般財源 4,055 万円（6.1%）であります。

九州北部豪雨や全国各地での短時間の記録的集中豪雨は線状降水帯によるものですが、新設高田排水機場の通水式が、集中豪雨等の事態前にできましたことに一安心しているところです。

残る外築工は 9 月に完了する予定です。

本日も提案申し上げます案件は

- ・ 条例改正 1 件
 - ・ 平成 29 年度市川三郷町一般会計 特別会計 補正予算 2 件
 - ・ 請負契約の締結 1 件
- の 4 案件であります。